

Wanna 縮約再考

言語獲得の視点から

田中 竹史

1. 導入

一般に、(1b) のような *wanna* は (1a) のような *want to* の“informal”な文脈における音声的な表現形と見なされ、両者は実質的に同一要素として扱われることが多い (Quirk et al. 1985)。

- (1) a. They want to get a new car.
b. They wanna get a new car. (Huddleston & Pullum 2002: 1616, 1617)

このようないわゆる *wanna* 縮約についてはこれまで多くの議論が展開されてきたが (Goodall 1991; Tokizaki 1991; Pullum 1997; Sato 2012)、そのほとんどが (1a) と (1b) を音韻形態的過程や統語的操作によって関係付けるなど、上述の直感を前提としているように思われる。

しかしながら、本稿では言語獲得の視点に基づき、*want to* と *wanna* は別個の語彙項目でありそれぞれ異なる統語構造を持ち、その違いが幼児による両者の獲得過程に影響を与えているという可能性を追求する。

2. *wanna* の二重性と統語構造

Lorenz (2012) や Huddleston & Pullum (2002) などが議論するように、*want to* は一貫して語彙範疇である動詞としての性質を示す一方、*wanna* は、否定 (2)、疑問、動詞句削除など、ある側面では語彙的動詞としての振る舞いを示し、時制 (3)、主語との一致など、またある側面では機能範疇である助動詞としての振る舞いを示すという二重性が観察される。同様に、幼児の発話においても、*want to* は一貫して動詞としての性質を持つ一方、*wanna* については、語彙的動詞と助動詞それぞれの性質を持つことが観察される。

- (2) a. I don't want to do that.
b. I don't wanna do that. (Lorenz 2012: 106)
- (3) a. Terry wanted to watch the Olympics.
b. *Terry wannaed watch the Olympics. (Lorenz 2012: 17)
- (4) a. I don't want to brush my hair. (Nina 2;05)
b. I no wanna go food store. (Abe 2;06)
- (5) a. I was screamin(g) because I wanted to call the police. (Sarah 4;10)
b. Mom I wanna see Mickey Mouse on the TV yesterday. (Abe 2;07)

このような両者における振る舞いの相違は、*want* は VP 内に生起する一方、*wanna* は VP 外に生起すると仮定することで適切にとらえられるように思われ、本研究では次のような構造を提案する。

- (6) a. *want to*: [TP [DP Subj] T [ModP Mod [FP F [vP v [VP want [CP PRO [TP to [vP v [VP V...
b. *wanna*: [TP [DP Subj] T [ModP Mod [FP wanna [vP v [VP V...

上記の構造において、*want* は語彙範疇の領域に生起し CP を選択するのに対して、*wanna* は ModP より低く VP よりも高い機能範疇の領域に生起し vP を選択する (cf. Mochová 2015)。このような構造的な相違が *want to* における動詞としての振る舞い、*wanna* における助動詞的な振る舞いを生じさせると考えられる。

3. *wanna* と *want to* の獲得過程

本研究では、幼児の発話コーパスである CHILDES を使用し、*wanna* と *want to* の分布に関する調査を実施した¹。その結果は次のようなものである。(i) *wanna* の獲得が *want to* の獲得に先行する傾向が見られる (二項検定)²。(ii) 全体として、大人による発話では *want to* (71.9%) の方が *wanna* (28.1%) よりも豊富に見られる一方、幼児の発話では *wanna*

(60.4%)の方が want to (39.6%)よりも優勢である (χ^2 乗検定)。

これらの統計的事実は、幼児に対する言語的インプットが直接的に獲得過程を決定してはいないことを示しているように思われ、また、wanna 縮約において特別な形態・統語的操作を仮定するアプローチの基では自然な説明を与えることが困難であるように思われる。

それでは、このような事実はどのようにとらえることが可能であろうか。一般に幼児の言語発達においては、Borer & Wexler (1987) や Di Domenico (2017) などが議論するように、複雑な構造や文法操作はそうでない構造や文法操作よりも後で獲得されることが知られている。

(7) A more complex item is expected to be acquired later than a less complex one. (Di Domenico 2017: 1)

さらに一旦ある構造や操作を獲得した後も、作動記憶など言語外の認知能力の影響により、大きな構造や複雑な構造の処理は安定的には発揮されず、幼児の発話においては、中間 wh 現象 (8)、二重 INFL、前動詞目的語文など (cf. Crain & Lillo-Martin 1999; Koizumi 2002)、大人の発話とは異なる様相を示す例が観察される。

(8) a. Who do you think who Grover wants to hug?
b. What do you think what the baby drinks? (Crain & Lillo-Martin 1999: 238)

このような点を考慮すると、CP補文を含む want to よりも小さい構造を持つ wanna は、言語処理に関する負荷が低く、幼児の発話において優勢な頻度で産出されると考えられる。

4. 結論

本研究では、従来 want to の音声的な縮約形として扱われてきた wanna について、言語獲得の視点に基づき、両者は別個の語彙項目であり、それぞれ異なる統語構造を持つと主張した。この主張は、wanna 縮約における標準的な分析に対して再考を迫るものであると言える。

¹ 本研究での調査は、Adam, Eve, Sarah, Abe, Naomi, Nina, Laura という七つのコーパスを対象として実施した。

² たとえば、Sarah の発話においては、wanna が want to よりも先行して 11 回発話されたが、偶然このような発話さがなされた確率は 1.22% である。

主要参考文献

- Borer, H., & K. Wexler. (1987) "The Maturation of Syntax," in T. Roeper & E. Williams. eds. *Parameter Setting*. 123-172. Reidel Publishing Company.
- Crain, S., & D. Lillo-Martin. (1999) *An Introduction to Linguistic Theory and Language Acquisition*. Blackwell.
- Di Domenico, E. (2017) *Syntactic Complexity from a Language Acquisition Perspective*. Cambridge Scholars Publishing.
- Goodall, G. (1991) "Wanna-Contraction as Restructuring," In C. Georgopoulos & R. Ishihara. eds. *Interdisciplinary Approaches to Language*. 239-254. Springer.
- Huddleston, R., & G. Pullum. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge U.P.
- Koizumi, M. (2002) "The Split VP Hypothesis: Evidence from Language Acquisition." in M. Amberber & P. Collins. eds. *Language Universals and Variation*. 61-81. Praeger.
- Lorenz, D. (2012) *Contractions of English Semi-Modals: The Emancipating Effect of Frequency*. Doctoral dissertation, Albert-Ludwigs-Universität Freiburg
- Machová, D. (2015) *Polyfunctionality and the Ongoing History of English Modals*. Doctoral dissertation, Palacký University in Olomouc.
- Pullum, G. (1997) "The Morpholexical Nature of To-Contraction," *Language*. 73: 79-102.
- Quirk, R. et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- Sato, Y. (2012) "Multiple Spell-Out and Contraction at the Syntax-Phonology Interface," *Syntax*. 15: 287-314.
- Sugisaki, K., & W. Snyder. (2006) "The Parameter of Preposition Stranding: A View from Child English," *Language Acquisition*. 13: 349-361.
- Tokizaki, H. (1991) "Wanna-contraction and verb incorporation," *Culture and Language: Sapporo University Journal of the Faculty of Foreign Languages*. 25: 29-46.